

見るは触れる 日本の新進作家 vol. 19

Seeing as though touching: Contemporary Japanese Photography vol. 19

2022年9月2日(金) - 12月11日(日) 3階展示室



水木 壘 | Mizuki Rui

澤田 華 | Sawada Hana

多和田有希 | Tawada Yuki

永田康祐 | Nagata Kosuke

岩井 優 | Iwai Masaru

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するため、新しい創造活動の展開の場として「日本の新進作家」展を2002年より開催しています。第19回目となる本展では、写真・映像イメージの持つテクスチャ（手触り）を起点に、写されたイメージのみならず、イメージの支持体となるメディアそれ自体への考察をうながす、5名の新進作家の試みをご紹介します。

本展でご紹介する、水木 壘、澤田 華、多和田有希、永田康祐、岩井 優による写真・映像作品は、視覚を通しその物質としての手触りを想起させます。

さらに、わたしたちが今見ているイメージとは、どのような物質から構成されているのか、イメージの生成プロセスのみならず、写真・映像メディアの本質へと目を向けさせます。

本展は、5名の作家による探求を通し、多様化し掴みどころのない写真・映像メディアの現在地を捉える機会となるでしょう。

本展のみどころ

写真・映像メディアの現在地を映し出す 5 名の新進作家

東京都写真美術館が毎年開催する「日本の新進作家」展は、2009 年第 1 回の開催以降、国内外の現代写真界を牽引する作家を多数輩出してきました。第 19 回目を迎える本展では、今後の活躍が期待される、水木 壘、澤田 華、多和田有希、永田康祐、岩井 優の 5 名を紹介します。彼らが映し出す、写真・映像メディアの現在地にご注目ください

見るは触れる——立体的に世界を知覚する

足の裏に感じた路上の質感から支持体に都市の記録を重ねる、水木 壘
認知のプロセスに問いを立て、想像と迂回を繰り返す、澤田 華
消す、燃やす、削る— 写真行為をとおして現実に対峙する、多和田有希
見ることの裏腹にある、零れ落ちてしまうものをあぶり出す、永田康祐
クレンジング（浄化・清浄）をテーマに社会をシニカルに洗い出す、岩井 優

本展は、「物質性をともない、見る者の身体と密接な関係の中で存在するメディア」ともいえる写真・映像ならではの特性に着目します。イメージの肌理や重量を感じさせる作家たちの五者五様の表現は、実際に作品には触れることができない環境下で、鑑賞者に「見る」「想像する」という行為そのものへの意識を促します。彼らのイメージの制作過程を追体験しながら、世界を立体的に知覚する感覚を再認識する契機となることでしょう。

美術館だからこそ体感し得る、写真と映像表現の新たな出会い

5 名の新進作家は、物質的あるいはコンセプチュアルなアプローチで写真・映像展示の可能性に迫ります。本展は既存の写真・映像作品展のイメージを大きく覆すような、立体的な作品のほか、美術館の展示空間を活かしたインスタレーション形式での展示を予定しています。新たな表現に挑む作家たちと、未だ見ぬ写真・映像表現との出会いにご期待ください。

出品作家および出品点数

水木 壘 Mizuki Rui	5 点
澤田 華 Sawada Hana	8 点
多和田有希 Tawada Yuki	5 点
永田康祐 Nagata Kosuke	1 点 (12 点 1 組)
岩井 優 Iwai Masaru	3 点

作家紹介と主な出品作品

水木 壘 | Mizuki Rui

1983 年生まれ、京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻卒業。京都市立芸術大学美術研究科メディア・アート領域博士号取得。都市文化と美術史上の問題を接続することで、現代都市におけるリアリズムを基にした風景と情景の関係性をテーマに制作を行う。とりわけ近年は「自然」の定義を「人間のアクティビティーの彼岸」として捉え、様々なメディアを用いて作品を展開している。近年の展覧会に、「ON—ものと身体 接点から」（清須市はるひ美術館、2022 年）、「constellation #02」（rin art association、2021 年）、個展「東下り」（WAITINGROOM、2019 年）、個展「鏡と穴—彫刻と写真の界面 vol.3 水木壘」（gallery αM、2017 年）など。



水木 壘

《雑草のポートレートおよび都市の地質学
(dubbed version 3) 》2022 年

澤田 華 | Sawada Hana

1990 年生まれ、京都精華大学芸術研究科博士前期課程修了。物事を認識する際に生じた些細な引っ掛かりを起点として、図像と想像の相互関係を検証するプロセスを作品化し、写真・映像をはじめとした様々な表現形態を用いて展開する。主な展覧会に、「第 3 回 PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ 2022」（京都市京セラ美術館、2022 年）、「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」（愛知県美術館ギャラリー、2019 年）、個展「夏のオープンラボ：澤田華 360° の迂回」（広島市現代美術館、2020 年）など。



澤田 華

《漂うビデオ（水槽、リュミエール兄弟、映像の角）》2022 年

多和田有希 | Tawada Yuki

1978 年生まれ、東北大学農学部応用生物化学科生命工学専攻卒業、ロンドン芸術大学キャンバーウェル・カレッジ・オブ・アーツ卒業、東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程修了。京都芸術大学准教授。写真療法のリサーチをベースに、人間の精神的治癒のシステムをテーマに制作をしている。自らの撮影した写真表面を消す（削る、燃やすなど）という行為を通し、都市や群衆の集会的無意識や個の意識変容をイメージとして湧出させる。主な展覧会に、「第12回恵比寿映像祭 時間を想像する」（東京都写真美術館、2020年）、「写真都市展 ウィリアム・クラインと22世紀を生きる写真家たち」（21_21 DESIGN SIGHT、2018年）、個展「悪魔祓い、系統樹、神経の森」（G/P gallery、2018年）など。



多和田有希

〈I am in You〉2018年

Courtesy of rin art association

永田康祐 | Nagata Kosuke

1990 年生まれ。社会制度やメディア技術、知覚システムといった人間が物事を認識する基礎となっている要素に着目し、あるものを他のものから区別するプロセスに伴う曖昧さについてあつかった作品を制作している。主な展覧会に、個展「約束の凝集 vol.2 永田康祐 | イート」（gallery αM、2020年）、「FALSE SPACES 虚現空間」（トーキョーアーツアンドスペース本郷、2019年）、「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」（愛知県美術館、2019年）、「オープン・スペース2018 イン・トランジション」（NTT インターコミュニケーション・センター、2018年）、「第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル」（東京都写真美術館、2018年）など。



永田康祐

〈Function Composition〉2019年 [参考図版]

Courtesy of ANOMALY

岩井 優 | Iwai Masaru

1975 年生まれ、東京藝術大学美術研究科博士後期課程修了。国内外の地域にて参与的な手法で活動に取り組み、クレンジング（洗浄・浄化）を主題に、映像、インスタレーション、パフォーマンスを展開している。主な展覧会に、「ヨコハマトリエンナーレ 2020 AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」（横浜美術館、2020 年）、「新・今日の作家展 2018 定点なき視点」（横浜市民ギャラリー、2018 年）、「リボンアート・フェスティバル 2017」（宮城県石巻市街地、牡鹿半島、2017 年）、個展「公開制作 83 岩井優 ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム」（府中市美術館、2021 年）、個展「コントロール・ダイアリーズ」（Takuro Someya Contemporary Art、2020 年）など。



岩井 優

《経験的空模様 #1》（Control diaries より）2020 年

Photo: Shu Nakagawa

©Masaru Iwai, Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

公式図録

『見るは触れる 日本の新進作家 vol. 19』2,530 円(税込)

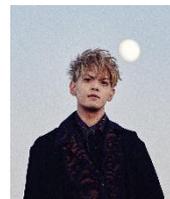
東京都写真美術館発行。遠藤みゆき（東京都写真美術館学芸員）によるエッセイ、出品作家 5 名によるステートメント、作品リストを収録。

関連イベント等

- 担当学芸員による展示解説
- アーティスト・トーク：会期中に出品作家によるトークを開催予定。
- 手話通訳付き展覧会トーク：学芸員が手話通訳者を交えて、展覧会の見どころをお話しします。

- カフェ・コラボレーションメニュー
会期中、1 階ミュージアムカフェ「フロムトップ」にて本展のコラボレーションメニューを展開予定です。詳細は決定次第ホームページ等でお知らせいたします。

- J-WAVE (81.3FM) × 「見るは触れる 日本の新進作家 vol. 19」
9 月 11 日(日) 22:00-22:54、本展の特別番組「J-WAVE SELECTION SEEING AS THOUGH TOUCHING」を放送予定（54 分間）。ナビゲーター：莊子 it (Dos Monos)



開催概要

見るは触れる 日本の新進作家 vol. 19

Seeing as though touching: Contemporary Japanese Photography vol. 19

会期 | 2022年9月2日(金) - 12月11日(日)

会場 | 東京都写真美術館 3階展示室

主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、東京新聞

助成 | 芸術文化振興基金

協賛 | 東京都写真美術館支援会員

後援 | J-WAVE 81.3FM

電話 | 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 | 10:00-18:00 (木・金曜日は20:00まで、入館は閉館30分前まで)

休館日 | 毎週月曜日 (月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)

観覧料 | 一般700円、学生560円、中高生・65歳以上350円

*10月1日(土)は「都民の日」のため無料

*本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

*図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

*図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

展覧会担当 遠藤 m.endo@topmuseum.jp / 関 / 大崎

広報担当 平澤 / 池田 / 鈴木(彩) press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により、内容を変更することがございます。最新情報は当館ホームページをご確認ください。